

第1表 給水設備のリフォーム

リフォームを検討すべき時期	機器または配管	状 況
1. 機器または配管が機能を満足しなくなり、寿命に達した時点	受水タンク 高置タンク	鋼板製タンクで、内外面共腐食が著しく、塗装などの部分的補修では対処できず漏水の恐れがある。
	揚水(給水)ポンプ	漏水・振動・異常音が著しく、オーバーホールなどでは対処できない。
	配管	漏水が各所で頻発し、部分的補修では対処できない。 使用場所での水量、水圧が異常に低下し、使用に支障がある。また赤水が吐水する。(特に15年以上経過した亜鉛鍍鋼管(白ガス管)は要注意)
2. 既存機器の容量・配管径が現状または増築・模様替えなどの負荷の変化に対して、著しく大きいかまたは、小さい場合。(上水給水量、受水タンク容量 揚水ポンプ揚水量、高置タンク容量のバランスが悪くなった場合)	受水タンク	容量不足の場合は、ピーク時に減水警報が頻繁に鳴る。給水引込口径を増径できない場合要注意。容量過大の場合は死水の恐れがある。
	高置タンク	容量不足の場合は、揚水ポンプの連続運転、ON、OFFが頻繁。容量過大の場合死水の恐れあり。
	給水引込管	口径不足(給水量不足)の場合、受水タンクの容量によっては度々減水警報発生。口径過大の場合は、基本料金の差額分損失。また、量水器以降の漏水が考えられる時。
	揚水(給水)ポンプ	容量不足の場合、水圧・水量の低下、断水の発生。過大の場合、ON、OFFが頻繁となりポンプ・制御系統の消耗が懸念される。
	配管	特に口径不足の場合、水量、水圧の低下となる。
3. 機器配管を交換することにより、維持管理費や運転費が大幅に節約できる場合	受水タンク 高置タンク	鋼板製タンクなどで、内外面の塗装費用が定期的に発生し、継続してゆくと、可成りの金額となり、新製品に交換した方が得な場合。
	揚水(給水)ポンプ	オーバーホールまたは部品を交換するよりも、新製品に替えた方が維持費が得。
	配管	土中配管で漏水が考えられる場合、他の仕様の管材に交換した方が腐食が少なく、修理費が節約できる場合。
4. 現在の法規に適合せず、安全衛生上または保守管理上問題がある場合	受水タンク	コンクリート地下式受水槽で、湧水・汚水の侵入などの恐れがある。また点検・清掃も不便で非衛生である。
	高置タンク	構造上、点検・清掃が困難かつ危険である。
	揚水(給水)ポンプ	日常の点検・保守管理が不可能な位置、またはタンクの水を汚染する恐れのある位置に設置してある。